



特 1  
193

014438-000-3

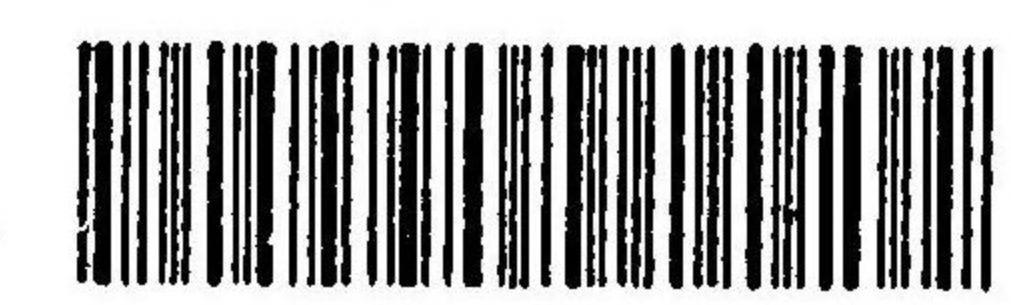
特18-193

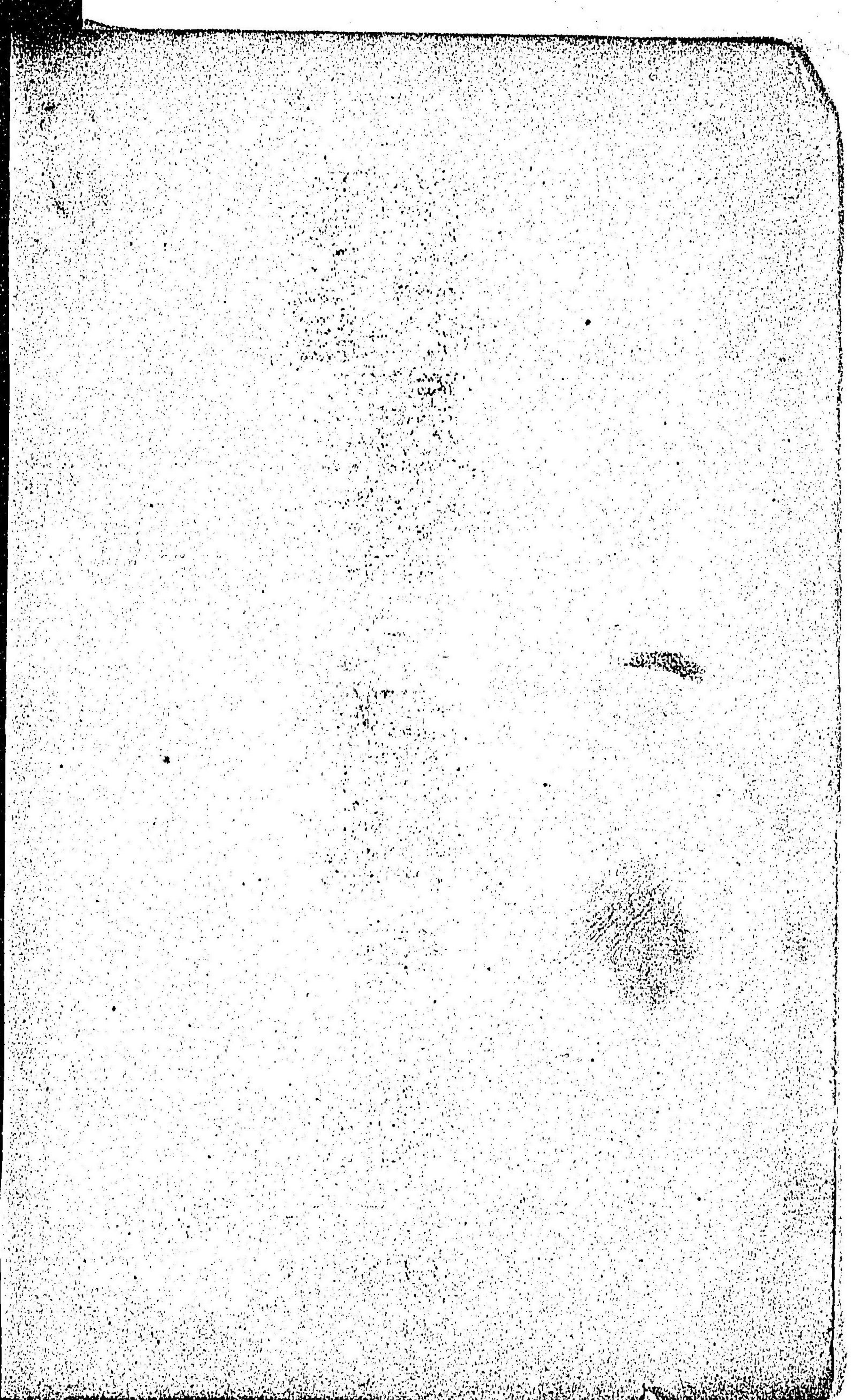
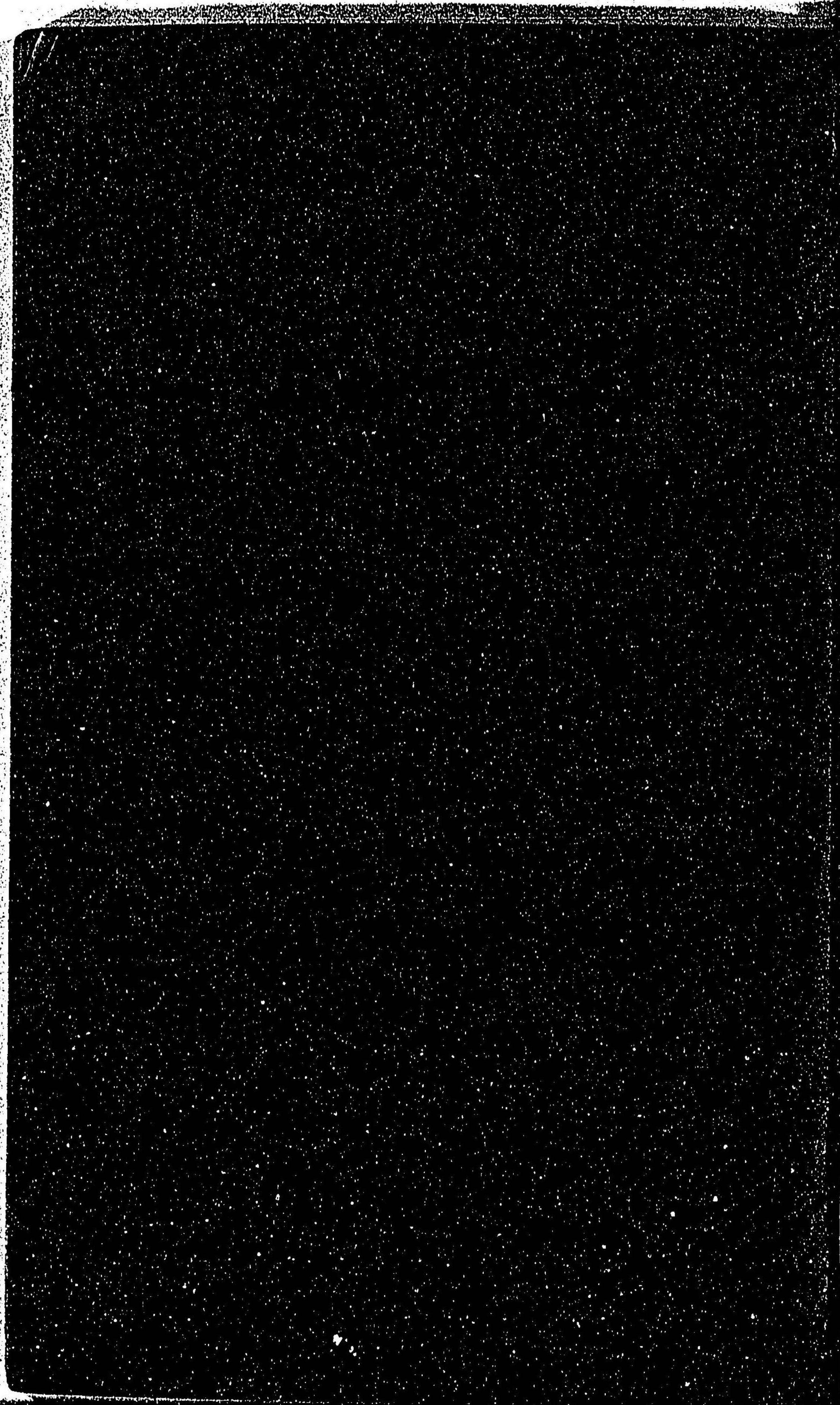
天理教御開祖真実之御話

武田 福蔵 / 編

M34

ABB-0816





持18  
193

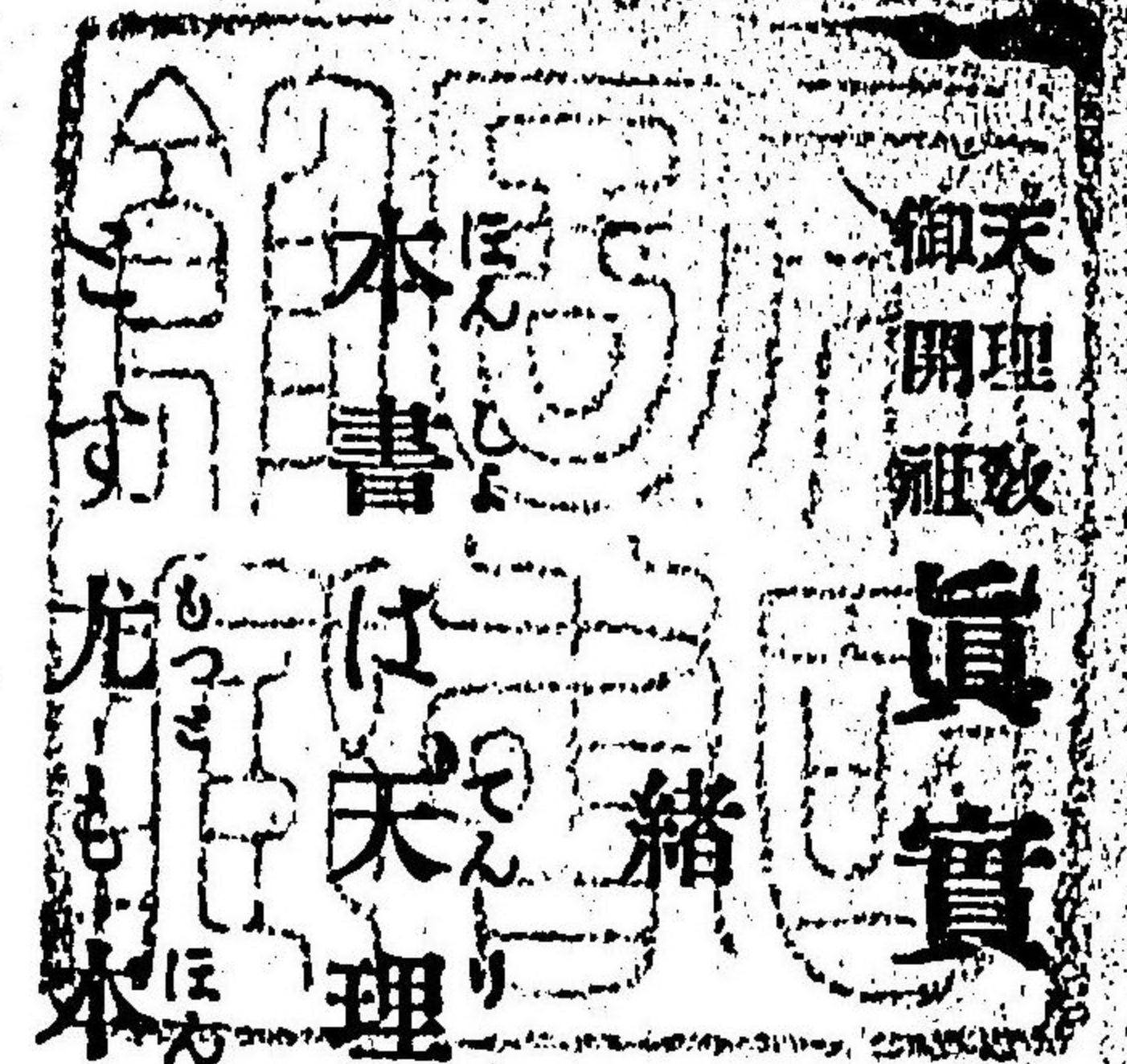
天理  
御開祖

眞實

の御話

緒

言



本書は天理教會眞實の御話を述べん  
尤も本書は信徒諸君の中にて婦

人小兒の爲め殊に分り易きを旨とせ

るものなれば俗語を以て記載せり看

らるゝ人はその心して天理教の眞相

○眞實の御話

序一



を研究せられ唯信仰の要領を失はざらんことを請ふのみ

明治三十四年六月下旬

編者誌

天理教祖御開祖 眞實のお話

さて天理教會の追々盛天なるに乗じて天教理とか天理の道話とか種々の書物が出来てありますが皆作者の勝手氣儘に天理教會の教理に擬し推測的の筆を執つて居りますから一として天理教會の現實に説き教へられつゝある眞實の御話取りも直さず教理といふものは記されてないそれ故に天理教會の故參の信徒にして深く教理を心得て居るものは一人もこれを顧るものはない只新參の信徒にして教理を研究せんとするに汲々たるものは彼の天理教と謂へる題目にのみ眼を注ぎてこれ

○眞實の御話

と買ひ求め歸りて後之を繕き見るに更にその眞實の御話なるものゝ記されて無く心學道話の句詞を襲ひたるか或は近古の聖人や賢人の格言などを蒐めたるに過ぎません故に天理教を信仰する上に於て一向益する處はなく中にはそれを眞實の御話と心得て人に向ふて説くゆゑ天理教にて何も變つた教へては無く皆古より在りの儘の教で別に深く信ずるに足らぬ杯この評あるに至る實に歎くべき次第であるそこで御筆先の第三號にも教祖様が説き置かれましたそれは(今迄は心學古記あるけれども元を知りたるものはないぞや)そのはづや泥水中の道すがら知りたるものはない筈のあとと)と箇様に仰せられ

ましたそれ故に心學や古記の如き物の本に書き記されたることを如何程澤山集めましたとて天理教の信徒には聊かも益なきのみならず實に神様の御思召や教祖様の御教の御主意に相叶はざるは勿論のことなれば尠くも包み隠さず又付け飾ることをなさず随ふて自分の意見などは甚だしく交へ加へずして現在天理教會本部に於て教へ説かれつゝある在りの儘なる眞實の御話を述べんごするものでありますから讀まん人はその心してこれを見られ充分に教理を研究せられんこと肝要なり天理教會の眞實の御話といふは此の世の本元を知らせたいこの本元の道理を知つたならば人間が悪しき心を

起すところはあるまいこの神様の御思召に依りて始まり  
たものでありますから人間が私に人の心を直さんごて  
説く處の教へとは異なり則ち教祖様が自分勝手に御説  
きをなされれ教ではありませぬそれ故に御筆先第三號に  
も今迄にないこと始めかけるのは元こしらへた神であ  
るからごござりましてこの世界に今迄に教へてないこ  
ごを始めて我々へ知らせて下さるのは此世の本源を拵  
へ下された難有い神様でありましてその神様が我々人  
間のする事なす事一向道理に適へるものなく皆自分の  
勝手氣儘なる心遣ひを致しまして自分で深き淵に陥  
るごごきの有様にて種々様々の苦みの本を拵らへ難儀

苦勞するのは天の親なる神様が見るに見かね遊ばして  
ごうぞしてこの人間たるものゝ心を直してやりたいも  
のである我心からごて難儀苦勞するのは氣の毒と思召  
されて御座りまして神様は直ぐに人に教へ玉ふ譯に  
はゆきませぬそこで昔からもいふてある通り天口なし  
人をして言はしむといへる如く御筆先第六號にも今迄  
も月日の社しつかりごもろてあれどもいづみいたなり  
ごありまして教祖様が結構な御心ご難有い御靈を持つ  
て御座つて元々の因縁に依りて月日の御社ご定まりて  
神様が御貫ひ受けに成つてあつたのであるさりながら  
種々の事情の爲めにその年限の次第々々に延び來りて

漸く神様の御見定めもつきこの世になき教を始め様とするには只口で説くばかりは何の益にも立ち難くこの教を弘ぐるに付てはその心が堅固でなければ半途に止て事を過つに至るものなれば第一その雛形手本となるべきものが肝腎であるゆへ教祖様にあらん限りの艱難苦勞を嘗めしめその心の撓むか否やを御ためし遊されたるに元よりの因縁にて結構なる御靈なれば聊かも難儀苦勞と思召さず人を助けんどの御心はすこしも撓み玉ふここなければ今ぞしゆん刻限ぞ來りこて天の親様がこれを見すまじ遊され則ち御筆先第六號にも月日よりそれを見すまじ天降り何かよろづをしらしたいか

らごありまして何かよろづの道すじこの世の本元なる譯柄を教へたいこて神様が天降りて教祖様に御入込み遊され御憑りになりましたの則ち天保九年十月廿六日の夜中で御座りましたされば前にも申述べました通り天理教會の御話は眞實なる天の親様の御話でありまして人間が勝手に作爲しました宗旨ではありませぬ猶教祖様は人間に御生れになつて在るものゝその實は神様の結構なる御靈を宿仕込遊ばされた因縁なる御靈なれば月日の御名代にして此の世の人々を教へ助け玉ふ此世の親様でありますそこで御筆先第七號にも(今まで)は同じ人間なるように思ふてゐるから何もわからん(と

八  
れからはなにをいふにもなすことも人間なるご更に思  
ふな第八號にもしかごまけ同じ人間なるごうに思て  
るのはこれはちがふでごも見へてありまして教祖様の  
結構な因縁なる御靈の御方ご知らずして我々ご同じ人  
間なる様に思ふから教祖様の言はれるごも爲される  
ごも疑ふようになるもので實に勿躰ないごごであり  
ます然るに世の中には教祖様のごごを疑ふ人が多い草  
深き田舎に生れられた高の知れた女風情に天の尊き神  
様が天降りて御憑りになる筈はない果して神様が此の  
世の人を教へ救はん爲めに天降つて教を説かせ玉ふも  
のなればもつご立派にして學問もあり智識もありて自

分の貴き人に御憑りになるべきご當りまへであるご疑  
ひあぐる人がありますごこれはこの世の本元の成立ち  
來る有様を知らぬからであります詰り學問を知らぬか  
らそふいふ間違ふた説を立てる様になるものにてこの  
世の始まつた時代には華族もなく士族もなく平民とい  
ふ名も定まつて在つた譯ではない世の中のだんご進  
むに従ふて社會といふものを組み立て世の治まり方の  
事情に依りて斯の如き種々の名稱が出来て同ト人間の  
中に階段のある様になつたのでありますされば華族ご  
いひ士族といひその名は異なりて身分の尊卑に分れた  
るも元は皆同等の人間取りも直さず皆神様の御造り下



十  
された子供で、何にも變つたことはない。殊に日本の國は門閥と云へるものを、非常に尊く思ふの風俗であります。斯くの如き門閥を尊む様なところでは、國が眞正の文明に赴くべきものではない。何となれば、人間に階段のある様なことなれば、それより限りて上に進むことが出来ぬ。されば、皆身分に安んじて、勉強するものがなくなる。そうすると、賢明なる人物が出来ぬ。それ故に眞の文明は望む。ここ出来ませぬ。門閥を尊ぶは、未開の世の中である。必竟人間が自身の進化發達したる歴史を研究せざるの罪である。然るに今日は、難有き御聖代になりました。華士族平民の階段も、百事維新と共に廢れまして、皆同等の權利を

得れる様になりました。是れが當然の道理であります。して神様の思召しである。即ち武斷が倒れまして、古代の御手風に復りまして、たので、何にも珍しきことに思ふ譯はない。随ふて御聖代の難有きは、人才登庸して平民とても文學あり識量あるものは、自分の腕を研き次第で、大臣にでも登れる様になりました。是れが神様の思召のある處で、御座ります。されば、教祖様に神様が御憑り遊されて、天理の教を御始めなされたのも、何にも怪み疑ふべき譯でもない。たごへ身分の卑しきものでも、海べりや山の奥に生れた人でも、する事言ふ事、天の神様の御思召に叶ひます。已上は取りも直さず、神の感應ありて、神と通ずること

十二  
ごが出来るのは當りまへの道理である人間は神様の一分子である即ち其の心の本體は神の一部分であります一部分の神であればその眞の神様に通ずることの出来るのは論を待たぬ次第でありますそこで御筆先の第六號にも(ご)のような高い山でも水がつく谷そこやごてあぶかゆはかい(ご)ある通り高い處に居る人も谷その様か低い處に居る人も何にも心靈の異なる譯はない皆同じ神様の子供であるなれば心一ツの治め方に依りて高い處に居る人も低きに落る時節もあり低き處に暮す人も心一ツの治め方が神様の思召に叶へばあぶないことはない人間たるの道理を知り得たる人こそ尊むべきこと

ごであるそれに高きごて低きを見下ゆて賤しみ低きごて高きを望み羨むことは凡夫ごて癡情の燃ゆたつ火焰である人間が神様の思召を知らずして彼と我との差別を立つるは皆自分ご自分で災を招くの本である御筆先の第十三號にも(ご)かごきけ高山にても谷そこも見れば月日のごごもばかりや(た)かやまにくらしているもたにそこに暮して居るも同じ魂ごある通り皆神様の一分子たる人間にして同等同權なるもので懸け隔てられたるものではない皆神様の子供同様で貴き卑きは人間の迷ひの上を生ずる痴情の夢であるたごへ草深き田舎に生れられた女なごらも慈悲深き心は尊きごご限りなく卑

しき家に生るとも眞直な心は敬ふに餘あり彼の世界各  
國に蔓延して最大勢力を有する耶蘇教を見よその教の  
開祖たる基督は如何であるぞ大工の職を營みし約瑟の  
子にあらざやされども誰も大工の如き卑しき家に生れ  
たる職人風情の子であるからそんなものゝ説き教へた  
事ごを聴くに及ばぬといふものはなしたごへ如何なる  
卑しきものゝ腹に宿るごもその靈魂といひその言ふご  
を行ふごご人の雛形手本ごなるに足れば此上なき貴き  
位地を占むるものにて謂ゆる眞正の人間である門閥の  
如きものは人間の作爲したる階段である文明の今日は  
斯の如き門閥を尊く思ふものはあるまじ若し門閥を此

上なき名譽ご心得る人こそ頑頓無智たる未開の蠻人ご  
名付くべき次第である華士族なりごて嬉しく思ひ人に  
誇るものこそその心の賤しむべく憐れむべきことなり  
彼の猿猴にして頭に金冠を被り身に金襴の衣を纏ふた  
りごて智徳なければ矢張り獸類たるの境界を脱すること  
ご能はず幾ら尊貴の家に生れたりごも智徳なければ人  
間の假面を被ふるのみにて社會の爲め世道人心に少し  
の益にも立ち難し人爵は一代限りのもの必竟身ご共に  
滅ぶもの天爵は永世萬劫のものたごへ身滅ぶるもその  
心ご理ごは決して失せざるなり永劫に傳はるもの尊き  
か一代限りのもの尊きかその取舍撰擇は八釜敷いふ迄

もなく論より證據仁義忠孝の人は昔も今に其名芳ばしく其の心こそその行は萬人これを慕はざるはなく一時の榮花誰も慕ふものなきを見てもその理のある處を知らるゝなり教祖様は結構を御靈をもつて此世の人を救はんが爲めに生れ出て玉ひ慈悲深き眞心は天の鏡に映りて眞實の神様が元なる因縁の理に依りて天降り教祖様の躰内へ入込み遊ばしてこの教をお始め成されたるは前にも申せし通りにて則ち御筆先第三號にも眞實の神が表へ出るからは如何を摸様もすると思へよ第六號に是迄は如何なる神といふたごて目に見んといふていたなり又この度はごのよな神も眞實に現れ出して話す

なりご御座ります斯く仰せられました通り此世の眞實の親神様が教祖様に御入込遊されたので人間の業で出来たものではない眞實の親神様が此の世の始まりし本元の理を教へて人間として自由自在の樂しき境に達せしめんごての難有き思召である然るに世の中の人はい此神様の思召のある處を知りませぬから暗き中に住みて暗き行を爲し種々様々の病難や災難を免れることを知らぬ總ての病苦は心一ツの我なるの理にあることを知らずして自分勝手に強慾愚癡の熱に蒸れて自分ながら苦みて暮すを最ご愍然に思召して教祖様の口を假りて眞實の神様が御話下さる難有き御教であります然る

に世の人は神様の御憑り遊されて教祖様の御説き諭し  
下されたことを怪み訝る人がありますが是れは必竟ず  
るに諸宗教の起りましたる歴史を知らぬからでありま  
す宗教は諸學問に先だちて發生したるもので人文史上  
の表現にして所謂の精神的の産物でありますこの世の  
中には人間が幾ら智囊を絞りても分らぬところが澤山あ  
りますその不可思議なることの當躰を看破することは迎  
も出来ませぬ現在我々人間は心といふものを各自に一  
ツ宛持つて居るがその心が種々様々に働きますがその  
心の本躰を如何なるものご自分ながら知るおことが出来  
ませぬされば自分の心でありながらその心を研究して

その本躰を見究めることが出来ぬ様を薄弱なる我々人  
間でありますから迎もその大なる宇宙の根本なる當躰  
を見現すことが出来ぬのは當りまへのことであります  
されば教祖様に神様の御憑り遊ばされて不思議なこと  
がありこの世の初りかたを詳しく御教へ下されました  
ことも何も疑ふ譯は少しもありませんませぬ果して左様なこ  
とがないものご理屈を稱へる以上は前に申しました通  
り各自の心の本躰ご宇宙の今日の如き現象を呈しをる  
その本躰ごを確實なる證據を揃へて反駁せねばならぬ  
只口先で詰らぬ屁理屈を稱へる位では富士山を動かさ  
飛さんに放屁を以てするが如く放屁の爲めにその身の

疲勞を求むるも富士山には何の事もなきご一般でござ  
ります。總て一大宗教の開祖ごなられました。御方たちの  
歴史を調ぶるに彼の釋迦牟尼は如何であるか。前には兜  
率天にありし一佛の娑婆の衆生を濟度せんが爲めに下  
土を見すまして天竺の迦畏羅衛國の淨飯王の妃摩耶夫  
人の母胎へ托体して此世へ出でられた。それ故に釋尊は  
摩耶夫人の脇腹を掻き破つて生れ出て、七歩進みて天  
上天下唯我獨尊ご唱へられた。何んご不思議なご事では  
ありませぬか。普通の我々は生れ落る處ご定まつてある  
のに脇腹から出でられた。ごいふご事は理屈を以て争ふ  
ご事は出来ぬ。その故は世界に澤山人間がある中に釋尊

の如き人は稀である。又我々は理屈を唱へるのみにてそ  
の偉業を爲すご事の出来ぬ以上は詰り凡夫である。凡夫  
の見を以てその偉大なる心情をば迎も窺ふご事は出来  
ませぬ。果してその理屈を唱へんごならば釋尊の位地に  
到て堂々論ずる方が宜しからん。又耶蘇教の開祖を見ら  
れど彼の基督は大工の約瑟の子ではありませぬ。彼の  
約瑟は摩利亞ごいへる女を許嫁して未だ結婚の式をも  
挙げぬのに何時の間にか摩利亞の腹はポテンご膨れ  
ました。から約瑟は妙な感じを致しましてその妊娠を疑  
ひつゝ世間に知れては殘念ご存じ。内密に謀を講して之  
を離縁せんご存じ居りました。ある夜のここに天帝の

御使が枕頭に立たれまして汝ち約瑟よ妻なる摩利亞の  
 懐妊は決して疑ふてはならぬぞ其方は知るまいがこれ  
 は天帝の精靈に感じて妊娠したのであるから大切に取  
 扱ひて離縁などは爲すべきでないその生れたる子は耶  
 蘇ご名付くべくその子成人して此世の救主となるべし  
 とて夢醒めたり果して違はず成人して救世主と成りて  
 教説怠りなければ追々其教の蔓延して人民の其教に歸  
 向する多ければ遂に邪宗を弘布するものと訴へられて  
 遂に十字架上の處刑を受けたるにその三日目に上天し  
 て其姿は見へなくなりまされたがこれ又實に不思議では  
 ありませぬか斯の如きことは薄弱なる人智の窺ひ知る

處ではありませぬその一大宗教の開祖ともなられる人  
 は此の如き不思議なる蹟がありましたして人々の信念を起  
 すの原因となるもので此等のことを比較して見る時は  
 教祖に神様が御憑り遊ばされて天理の教を擴められま  
 したのも何にも怪しむべきことではありませぬ教祖様  
 は素より我々ご同等の人間ではありませぬ教祖様を同  
 じ肉躰を備へらるゝ人間と思ふから間違ひます同じ肉  
 体でありましても前生の結構な因縁にてその靈魂は決  
 して我々ご同等なるものではなく神様の仰せの通り伊  
 邪那美命の靈魂を供へられて此世の人間を救はん爲め  
 に世の濁りたる心を澄さん爲めに親神様の命を受けて

教を説く爲めに出でられたのでありますそこで教祖様の御心は慈悲を以て満たされ一にも二にも人を救いたいこの思召のみでありました教祖様の尊き御方たることを知らず又神様の深き御思召のあることを世の人は知りませぬから御存生中には狸つきか狐つきか様々に悪評を受けられましたなれども教祖様は唯氣の毒な人やご思召して可愛想な人ご思召し何ごかしてこの結構なる教を説き及ぼして心に作れる種々のほこりを拂はしめて神慮に叶はしめんこのお心は我々は畏れ入つたることであります

お日様やれ月様は多くの人に悪口を言はれても一日ご

て夜ご晝ごを照し下されぬはなしこの道理を考へなばなんにも悪口をいふには及ばぬ悪口をいふものは身に多少の苦みを受くれども月日様には何んごも答へられぬ仰いで唾を吐けば人にかゝらず我身にふりかゝるもので實に我身しらずの氣の毒な人である然るに世の人の悪口いふは何んにも知らぬからである神様の仰せられるには萬世の世界一列見はらせご胸のありたものはないその胸の分らぬ物の道理を知らぬのは是迄に神様が人間に御憑りなされて説いて聞かされたことはないからであるされば世の人の知らぬのは無理なことはない此度は神様が表へ御顯れ遊ばされて教祖様の口を



假りて御説き教へ下さるは御筆先にも見ゆる通りこの  
 處大和の地場の神がたごいふていれごも元はしろまい  
 ご御座ります通り此の世の開け初めた時には伊邪那岐  
 命伊邪那美命二柱の神様が人間の雛形手本となり種子  
 苗代ご御成りなされて人間を御造り下されたのは世界  
 中にこの處より外には在ませぬそこで庄屋敷とも申し  
 まして元々人間をお作り下されたる生れ屋敷であるか  
 らその理に依りて大和の神方が稱へます譯である個様  
 な因縁ある結構なる地場なれば元々世界の人間をれ作  
 り下された伊邪那美命の靈魂を備へ玉ふ教祖様を御引  
 寄せ遊ばして御教へ始め下される譯であります人間は

今迄は何にも知らずして我心から病氣を拵らへ苦難を  
 招くものであるかれどもその理由を教へずして來りた  
 るは詰り親神の責めであるご仰せられ何様な間違する  
 も無理ではまい皆親の仕込みの足らぬ故で子に充分に  
 教へてやらずして叱ることは出來ぬ世の中には随分間  
 違ふたことを言ふたり爲たりするものがある親等が子  
 供を寝かさうと思ふてそりや狼が來るごかそりや幽霊  
 が來るごかいふて子供を嚇かしするに就いては小供は  
 ごんな畏ろしきものは其形を見留めずして次第に何  
 んとなくその畏ろしきご心にしみこみ唯親の言ふ  
 ことには間違はないご稚な心に信ずるものからその嚇

すに随ひて寝る癖ごかりそれが先入主ごなりて一ツの  
 悪い臆病の癖が附きましたでだん、大きくなりて七八  
 歳の時分になるご夜分になると懼れの心を生じ外へ出  
 ることはこわがり家の内にては何ごなくこわみごさし  
 て小便に行くにも明りがかけねばようゆかぬ様になり  
 暗き處が非常に恐れて魔鬼でも潜み居る様になる、そ  
 するご親等は腹を立て、何ごこわい夜中になれば使に  
 も行かず小便にも行かず何が畏ろしいのかご怒鳴り付  
 くる小供は泣くます、夜叉ごなりて叱り付け終に小  
 兒の頭を叩くと小供はだん、恐縮してしまふ是は皆  
 小兒の悪いのではない親が小供のこわがる様に五年も

六年も仕込んだゆへ斯の如き一ツの悪き癖を造つたの  
 である詰り畏ろしく思ふ様に成りましたのは皆親の教  
 へた通りに守り居る譯で一面から見れば親を信ずるよ  
 り生ずる處の反射でありますこの道理で子兒が大きく  
 なりて猥りがましき言をいふたり猥を行をするのは皆  
 親が言ふたり行ふたりするご子を子兒が何時ごなく親  
 のことを見習ふものにて皆親を思ふの子兒といふも過  
 言ではありませぬそこで親等は何にも子兒を叱り付け  
 るには及ばぬ皆自分の心を調べて見ると宜しい子兒が  
 個様の悪しきことをするのは皆私の教へた通りにする  
 のである蒔た種は生へるもので米を蒔けば米が生へ麥

を蒔けば麥が生へる獨り米麥の形を備へました物のみ  
でない人間の有ておる心もその通り心通りに蒔きまし  
た通りに顯れて來る何んぞ因縁といふものは恐ろしい  
ものであるぞ我心の年來積れましたほこりを疾かに拂  
ひまして懺悔して神様へ御詫申上げまこと一筋の心と  
入れ換へますれば子供のする事いふ事親の心につれて  
直くなるものです皆親の型通りになるものは申す迄も  
なきことにて必竟するに親等皆胸が分らぬからであ  
る自分たちはこの世へごうして生れて來ましたかまた  
この身上の何不足なくこの通りに自由なるは何の御  
蔭であるか左様なことは勘しも分らず唯自分勝手に

出來て勝手に大きく成つた様に思ふて居るから言ふこ  
と爲す事皆間違ふてくるのである其本乱れて末の治ま  
るものはない自分等の生れ出でたるその本を知らずそ  
の生るゝの道理が分らぬから一切の末のことは皆間違  
ふて來るのである人間が勝手氣儘に出來るものなら世  
の中に難儀するものは一人もなく不自由するものはな  
き筈のこと子が多くて難儀し子がなくて難儀したりそ  
の外病み煩ふものがない筈でなければならぬそれに世  
の中のことば人間の思ふ様にならぬは如何なる道理で  
あるかを考へて見よ皆その本が分らぬ故であるそこで  
神様はこれを氣の毒でならぬと仰せられる何んでも早

くこの本を知らしむたいと思へどもその刻限が来らぬ故  
に致し方なくこの度はその刻限の来りて天降りて元な  
る因縁の地場へ因縁なる魂のものを呼び寄せその者に  
難儀苦勞一切のためを成して其心を確め教の雛形手  
本となるの理を見定めて何事にも動ぜぬ大丈夫の心と  
見て其口を假り始めたのは天保九年十月廿六日と仰せ  
られるそれから教祖様は五十有餘年の間長の年月變り  
のなきこと一日の如く世の人を救ひ助くる雛形手本の  
道をお通りになりました神様は人間に難儀せぬ様病み  
煩ひせぬ様にその秘傳を教へたいと思召せども兎角人  
間は疑ひの心が晴れぬ世の中を見れば我心からごて勝

手の道を通りて苦しむ様は見るに見られぬ氣の毒でな  
らぬそれゆへ神様が天降りて人間に病まず死なず苦み  
のなき道を教へようと思へども縁もゆかりもなき者に  
教へる譯にはゆかぬそれゆへに教祖様に御憑り遊ばさ  
れ此世一切の道理を説き聞かさんこの思召であるそこ  
で神様の御ためし遊された始と申しますのは教祖様の  
御子等は澤山ありました乳が澤山出ますゆへ隣家の  
乳のなき足達源右衛門を預りました處がその當時天然  
痘が非常に流行致しまして我が子も預り子も痘瘡に罹  
りました然るに預り子は黒痘瘡に變じました世に黒痘  
瘡は壽命がないと稱へましたゆへ教祖様は甚だ御心配

遊ばされ自分の子供は落命するも構はざれども預り子に於て若しもの事ある時は親等へ申譯のたぬのみか世間の人に對しても種々の評を受けんと思召して諸の神佛へ祈願を込められ晝夜水垢離を取りて一心不乱に信心遊ばされ我子の壽命は勿論自分の壽命迄も捧けて預り子を救はんこの心切なりければ神の感應やありけん僅かの間にも全快せられましたそれよりは御信心は益々強く人を御救ひ遊ばされて澤山の財産も難義の者を濟ふためにた費しなされ其間は政府の嫌疑を受けられて度々警察署へ拘引せられ終に監獄署迄御入り成されて此道を擴げられました

火と水とは一の神風より外に神はなしと仰せられまして此世の本源なるは泥の海でありましたがその中に月日の二柱御座つたばかりであります月日二柱の神はごろの海を立出られて御相談なされ人間といふものを製らへて陽氣遊参を見て暮そうではないかその人間を拵らへる雛形や手本がなければならぬ泥の海を見澄し玉へるに泥鱈ばかり居りましたそれを喰ひ味ひて人間の魂となされましたその泥鱈は九億九万九千九百九十丸の数でありました人間は此世にあれども其本心は天に映りてあるもので彼の天に列なる星は則ち人間の本心なるものでありますそれから人魚と己といふ白蛇を

見付られましたにこの二ツの物は身には鱗もなくその肌やいの至つて美しきものでありますそのうへ顔がうるはしく直き性質のものであるから人魚も白蛇も嫌ふにも拘はらぬ無理にお貰ひなされて人魚を男の雛形とし白蛇を女の雛形となされて人間といふものゝ太躰の姿ごかし乾の方の鯨ご巽の方の龜ご東の方の鰻ご坤の方の鰈ご西の方の黒蛇良の方の鮫ご都合六品の物を以て人間身の内の守護する各部の受持をお定め遊ばされまして人間總体の備へが出来ましたゆへに伊邪那岐命ご伊邪那美命ご申す御名前を人魚ご白蛇に與へられ人間作る種子苗代ごなし其代りに人間をして神ご崇め

しむることよなされましたあの一柱の神が三日三夜に南無々々ご二人宛宿し込んで生み賜ひて九億九萬九千九百九人の人数を生ましましたそこで人間ごいふ名の出来ました譯は人魚の人ごけい魚のけいごを以て人けい則ち人間ご申すことである人魚は一名けい魚ごもいふからです人間が三尺に成りました時には泥の海の模様が変わりまして海は海ごなり山は山ごなり地は地ごなり天は天ご定まりてその形を現はしました元ご人間は五分から育ちまして九億九萬年の間は水の中の住居てありましたが五尺の人間ご成人ごしました時に岡へ上りましたその間月日様の御心配下されたところは容易で

はありませぬ今日世の中の進みました文明の小兒の育  
 て方に於ても親等の骨折りは一通りでは行きませぬ況  
 して紋形もなき處から育て上げ下されました親神様の  
 御骨折下されたることは何程か譬へられぬ位です其筈  
 で六千年の間は一切の藝事を御仕込下され四千年の間  
 は文字の御仕込を受けました五尺の丈を備へました人  
 間も成りました迄は五分から生れて九十九年を経て三  
 寸迄成長してその時には残らず死絶へました處が又伊  
 邪那美命の御胎内へ九億九萬九千九百九十九人の人數  
 を宿仕込なされて五分の人間生れ九十九年間で三寸五  
 分迄に成長いたしまして死絶へました三度目には同じ

胎内へ同じ人數宿仕込玉ひて九十九年間に四寸迄に成  
 人しまして死にました凡て九千九百九十九年の間には  
 此世の中にありごある鳥畜類は皆八千八度の生れ變り  
 をなして漸くに今日の姿を呈するに至りたるものであ  
 る而して最後に至りまして死に絶へた中に猿一疋残り  
 ましたがこの猿は國狹土命の魂を備へて生れたるもの  
 でありましてその胎内に男五人と女五人と宿りて生れ  
 出で一尺八寸に成る迄は五組づゝ生れ三尺までは男女  
 二人づゝ生れ三尺より今までは一人宛生れる様に成り  
 ましたが斯くの如く生れ變れる次第は元の親神様より  
 外に知れるものは御座りませぬそれ故に人間は元々個

様の物から出来ましたことは知らぬゆへに神様の眞實  
 の御話を承りましても分りませぬが近頃になりまして  
 は生物學者のダルウヰン氏は人猿同祖説を唱へる様に  
 なりまして大體の學者は其説を賛同致します何が  
 今日の人間の如き物が始めから居つたのではない神様  
 の仰せの如く單純のものから複雑に進みましたのには  
 相違なくされども悲ひ哉人間は薄弱なものであるから  
 其等のことは一向分らぬゆへ虫魚類から神様の大なる  
 御力によりて完全なる人間となりましたことを疑ふ次  
 第であります追々學者も其説を研究する様になりま  
 すれば天理教の神説は動かぬ結構な道理と成るに違ひ

ありませぬ神様は仰せられました通り御筆先にも泥海  
 中の道すがら知りたるものはない筈のこゝに申されま  
 した通り泥の海の中に於て次第に成育して今日の如く  
 立派な形を備ふる様に成りましたものですから我々は  
 其本元なるの道理にさへ達しますれば皆勝手氣儘の心  
 を遣ふものはかく親神様の御心に適ふ様に成りますな  
 れども凡夫であるから知るところは出来ぬ難儀苦勞して  
 始めて氣が付くもので無病の時に養生をせねばならぬ  
 のに病氣して苦しいから始めて養生を成すと同じこと  
 である無病健康の時には信神の心は起らぬものである  
 がさあ病氣となる時は苦さに堪へられぬから手を合し



て神様を信心する様に成るがその信心するに就ては能く其理に通ぜねばならぬ此世は地と天とをかたごりて夫婦を拵らへ來ると仰せられた通り天となり地となり其間に万物の現れて形を呈し居るは何でありますか萬物あれどもこれを約めて見れば心と物との二ツに成りますその心と物の本躰は何であるかと研むれば同一の根元に歸着致します譯でされば天地の絶對的本躰は是れ即ち無上本尊なる大なる活力を有せられたる天理王命となるべくこの天理王命の神様が保有せられし活力を備へ玉へる一大元體が開發致しまして天地万物の現象と成りました譯でありますから我々人間の肉體

と心との本躰は皆神の一部分でありますすべて大木となりたるも一粒の種子から成長したのである其種子の中には幹となり枝となり葉となり花となり實となるの材質を備ふるものであるこの道理も同一であつて今日の天地万物とありました材質は天理王命の本躰中に備はつてありましたもの故に其躰の開發して斯くの如く成りましたことは申す迄もなくされば理脈貫通して一定の規律は決して失ふことはないこれ天理の天理たる神理でありますれば天地の本躰と人間の本体と相通ずるは必然の勢であるされば心に於て積みたる罪惡なるほこりは其身に反射して病苦を造るの本とる故に病

苦の救はれんことを欲するものはそのほこりを懺悔し  
 て罪惡を拂ふに若くはなしその罪惡なるほこりを懺悔  
 して神様に謝するは眞善なる本体に歸りて神様に合一  
 せんことを務むるものであるそこで神様の仰せらるゝ  
 には身の内は借り物にして神様より借し與られたるも  
 のこそその借し下されたる理由は前にも申し述べました  
 通り人間をれ造り下される時に道具雛形にれ使ひ成さ  
 れました身の内各部の受持ちて御守護下さる神々があ  
 りましてその一旦定まりました道理が本となりまして  
 今日とても人間身の内に入込み下されて晝夜に御守護  
 下さるのである若し一分間でも御守護下さらぬ時は

直ぐに濫みも無くなりまして息去ぬものでありますそ  
 こで第一に國常立命と申しますは天にては月様と現  
 れ玉ひて人間の身の内には水氣一切即ち目洞濕ひの御  
 守護下されるので身の内に血液の循環するのも肉眼の  
 見ゆる理も皆この神の御守護であります次に面足命は  
 天にては日様と現れ玉ひ人間身の内にては濫一切の御  
 守護下さる次第であるこの月日二柱の神は親神様であ  
 りますその國常立命と申しますのは泥の海を立ち上  
 り玉ひて國底を見定め玉ひしより國見定の尊とも國常  
 立の命とも稱へ奉る譯でそこで人間をお作り下されま  
 した時には上ら宿仕込衝き立てられました理から月

と申すことにて月様が先に泥の海を立出で玉ひしとり  
 月日といひ三十日を一月といふのも此の世をお始め下  
 されました神様ですから月と申すことにて此世は夜から  
 始まりました月夜は夜を照し玉ふものから此世と申す譯  
 であるその面足命と申しますのは人間宿仕込の時に  
 日々に身が重くなるゆへに斯く稱へ奉るものでこの神  
 様の御姿は十二の頭にて三ツの劍の尾で御座ります理  
 から今も悪性なる女を蛇劍なる女と申す譯で十二の頭  
 でその頭が一月交りに御守護下さる處から十二月を一  
 年といふので一日も十二時間に分け刻むもこの理より  
 出でしものにて十二支といふのも皆この日様から起り

ました次に國狹土命はそのお姿は龜であります龜とい  
 ふものは甲の皮が此上もなく堅くきつく壓へましても  
 潰れることはなく土の色を帯びて居るから斯く神名を  
 付け玉へるものでありまして女の一の道具の神人間身  
 の内は皮繋ぎの御守護を下され皮一重内は見苦しく穢  
 れたるものなれどもこの皮繋ぎの御守護下さる爲めに  
 見苦しき處も見ぬものである世界に金錢にて繋ぎの  
 守護を下されて日々暮して通るのも此神の御守護であ  
 ります其他夫婦の縁も親子の縁も繋がるの理はこの神  
 の守り玉ふ所謂縁結びの神であります次に月讀命は  
 お姿は魎であるこの魎といふものは勢が強くて妙にし

やくばるるものですから男の一の道具の神であります男  
 女交接の時には上から衝く處の理を以て月讀命と神名  
 を下されたものでありますこの神は人間の身の内は骨  
 衝張りの御守護下さるものにて人間の起つ時は眞直に  
 歩むここが出来ものこの神の御守護です次に雲讀命  
 は人間身の内飲食出入の御守護下さるものでそのお姿  
 は鰻ですその鰻は頭尾共に壓へましても自由自在にぬ  
 るくぬけて出入する處から斯くの御守護を下される  
 ことになりました以上五柱の神様を五倫五体と申しま  
 す次に賢根命はそのお姿は蝶であるその蝶は申すもの  
 は身薄く平らなるものだから人間身の内息を吹き分け

の御守護下され世界に於ては風の御守護下されるので  
 そこで人間の賢きものも息の吹き分けに依りまして表  
 れるものであるから惶根尊と云ふ神名があるので御座  
 ります已上六柱の神は六臺と申しまして六地六區とい  
 ふのもこれから始まり又睦まじいと申すのも此六柱の  
 神様が平等に御守護下されるから申すことでそこで人  
 間身の内に於いてこの六柱の神の一柱でも御守護なき  
 時は痛み苦しき處が出来譯で六區に御守り下さる時  
 は無病健康の時であります次に大食天尊はそのお姿は  
 鰻でありましてこれは食する時は中毒することもあり  
 ます人間の生るゝ時には親子の縁をお切り下され死す

る時はこの世の縁をお切り下さるの御守護であるすべ  
 て物を大食します時は壽命を短かくして病を求め死  
 に至りまする處から大食天命と申す御神名が在る譯で  
 す次に大斗邊命はそのお姿は黒蛇であるこれはその強  
 き勢がありまして引いても切れませぬ處から立毛一切  
 の引出しの御守護下さる譯でありまして彼の物を引き  
 出すには芋綱が必用ですその引出しの理と物事を上手  
 にする人を指しまして黒と申しまする處から芋綱のオ  
 と黒フットのの理で大斗邊命といふ御神名が在る譯で  
 すそこで人間がお産を致しましてサント申しまする譯  
 は大食天命と大斗邊命と國狹土命とのお三方が御守護

下される處からサント申す譯ですこのお三方の御守護  
 下さらねば難産して親子共に命を落すここに成ります  
 産といふものは女の一大厄でありまして生死の際で  
 あるそのお三方の御守護下さる次第は大食天命が親  
 子の縁をお切り下され大斗邊尊が母の胎内より其子を  
 お引き出下されて出生するその生れました跡の切れま  
 した處は國狹土尊が繋いで下されるこのお三方の御力  
 なけねば人間は決して生れるものではないそれに何そ  
 や人間は勝手に生れて來た様に思ふて居るは大なる間  
 違であります斯くの如き神様が人間の身の内に御入込  
 み下されて御守護下さることを知れば難有く結構なこ

さて一日も神様の御恩をば忘れることは出来ませぬ次に伊弉那岐命は人間の種子で伊弉那美命は人間の苗代でありますそれで是迄にだんく申上ました通り月日様は即ち國常立命面足命は陰陽二柱の親神でありますて其他の國狹土命月讀命雲讀命惶根命大食天尊大斗邊尊の六柱の神は人間を御作り下さるの道具雛形としてお使ひなされ其功能の理に依りて親神様からそれく守護下さる爲めに神名を下されて人間に崇敬せしめ玉へるものなり斯く親神様の最大なる御力に依りまして御守護下さる各自受持の場所をお定め何時迄も變らぬ原理をお立て遊ばされて伊弉那岐尊伊弉那美命二柱

の神に始めて形をお備へ遊ばされて人間を宿仕込むの理を賦せられました次第でありますそこでこの八柱の神様のそれくの受持玉ふ御守護はあれども眞實の御働きは月日二柱の親神様が入込み玉ふて御守護下さることは知らねばなりません已上の十柱の神様を總稱して天理王命と稱へますそこで天理王命は宇宙の本体の神で所謂無上本尊で御座りますこの無上本尊の第一現象とも申すべきものは十柱の神であります世間の知らぬ人は天理王命は歴史の上に無き神と申しますもそれはその道理に暗いからであります宇宙の本体は無上本尊であるその無上本尊なる神様ですから何如なる御

名前を推し奉るも決して構ふ譯ではなく御神名は唯その信仰の上に存する譯であります必竟するに其信仰する上に於て我々一個人の本軀を推し究めて愚癡情慾の心の熱に蒸されて生くる處の煩惱といふ虱を拂ひて純一無二の妙境に達し俗塵を蟬脱する時は自から己れの本の本体に達するを得べくその本体に達し得る時は宇宙の本体たる無上本尊なる天理王命と理脈貫通して自由の妙境に逍遙することゝ出来ますからよく信仰上に就て眞理を研究せられよ大に悟を得ることがあります以下の教理は次の本に譲ります

天理教 眞實の御話畢  
御開祖

明治三十四年六月廿五日印刷  
明治三十四年七月五日發行

定価 今十五錢

編者 兼 發行 者 大坂市東區南久太郎町四丁目八十六番屋敷 武田福藏

印刷者 大坂市南區鰻谷西ノ町十七番屋敷 岩井龜次郎

販賣者 奈良縣山邊郡丹波市町大字三島五番屋敷 木下松太郎

同 縣山邊郡丹波市町大字三島七番屋敷 今村書店

同 縣同郡丹波市町大字三島 中田書店

同 奈良縣添上郡帶解村大字今市一番地 木原書店

同 縣同郡帶解村大字今市 井久保書店

復製不許

